平新報

No 21

發行日毎月三回 五ノ日發行
發行兼編輯印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七七 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五拾錢 場所指定倍增
定價一部送料共拾錢

◎……動中靜觀……◎

主筆 山野邊庄吉

星氏と比佐氏

◇その人となりを知る先輩たる衆議院議員比佐昌平氏をして政治家として大成さしめたいと等しく、あまり詳しく知らぬが世界のスターとしての製藥王星一氏をして實業界に果實を結ばしめたい、共に郷土磐城の生んだ、プライドとしてたる人物である、それを政黨的に色眼鏡的に斜視して傷つけんとするはアマリに郷土味がなく偏見である。兩氏ともの欠點を庇護せよとは言はぬ……がその地位と事業とをより以上大ならしめ共々に援助するの義務が郷土人としてあつて欲しいものである。

代議士 比佐昌平氏

再び磐中同窓會について

◇筆者の前號に於て磐中同窓問題を力筆せるに對して磐中同アマリオトナげないと評して居る……が筆者そを力筆するの義務があるのである……本紙が磐中同窓友から育まれつゝある、會友の一人として……何も總會で副會長二名等と決議せぬ物を決議した如く「當時出席せる藤田榮助君はかく云ふ」一部の人が專斷になす如きアマリに人なきが如き振舞ではあるまいか、そんな事〳〵と放任し置いたなら何事も放任してよいといふ事になりはせぬか、それでは進歩もなく改良もない、要は不平者を出さず圓滿に進め行くのが會長たり幹事たりその責にある人の手腕と人格の輕重が判るのである事は同窓會といふ一部分たるかも知れぬが吾人何事も社會人として廣く波及するを見逃してはならぬのである。

㊀趣㊀味と所藏

尙古會銘々錄（四）

丹野市太郎氏

平町五丁目大内屋瀨戶物店の御隱居樣で常に釜屋商店の勝手元に奉仕して金融やら小作の方を取扱つて居られる釜屋店主諸橋久太郎翁より一つ年下の六十三才の御老人である、氏の父五郎兵衛翁は八十一才の高齢まで長壽されたとか氏も亦八十以上は長壽されるであらふ、氏を大内屋に訪へば裏二階に案内され伊勢の萬古燒の茶器で茶を御馳走になりながら氏の愛藏する文墨書帳には摘翠、芳洲、華闕の生花、佐瀨剛の字、醉竹の竹、水揚、青坡の指頭書、金子米軒の蘭、青坡、立嶺の鮎、耕廣の唐美人、坂本の犬、敬華「泉の人」の山水清明「東京の人」菊、うち北澤樂天の「こくり〳〵と國利福」等もあり右全部纏めにしてある當り綴蒐には相當苦心せるものであらふ、尙ほ氏はマツチポスターの蒐集に趣味を持ち百六十二枚程集めて居つた樣である銅器としてはガマ仙人の水滴、キリンのコーロ等は得難いものであらふ、その間翁が語り出した趣味と所藏に對する、意見と抱負は參考となるべきもの又我が意を得た事あり此處に紹介する、先つ、老人の骨董イヂリは小供のオモチヤ遊びと似たものですを前提として

書畫骨董について私は素より錢が御座いませんから高價な物は所藏して居りませんが數は大部あります、大名物でも僞物は安く買はれますが僞物は嫌いですから中名所で眞績物を集めて居ります、

私は外に道樂は有りませんから多少趣味を持つて居る書畫骨董をイヂクリ樂んで居ります、早く云へば老人の「をもちや」ですね、小供にヲモチヤが必要と同じく老人にも何かの趣味がなければならぬ、書畫骨董に趣味の有る人は誰でも左樣だろうと思ひますが書畫をながめ又は氣に入つた骨董を手にし熱心に見る時は所謂無我の境に入り世の中の雜念を去り何共いえぬ快感に打たれますよ

兎に角氏は金ピカよりは黑ポヒ物を愛する側で無病長生方法もこの趣味を以つて效能ありと力說さるゝ程撤底した高尙な趣味な所有者でそれに添ふて趣味は新らしい樣であるが、ジミな確實なものを所藏して居らる

× ×

◇平町議柏原眞吾氏の所藏故井上圓了氏書
一忍排百難一誠貫百事
◇同關内彦太郎氏所藏清光堂書店に同圓了氏書
百聞不如一讀

拜啓
貴下益々御健勝の段奉賀候 偖初刊より引き續き平新報を御惠送被下深謝奉候御陰を以て北海道の片田舍の八雲町一僻に居住しながら御地の情況並に磐中同窓生各位の御動靜を伺ひ知るを得小生に取りてはこの上なき慰藉に御座候今後續いて御送附下さるやう御願申上候
甚だ僅少ながら購讀料として金貳圓也差上候
序ながら御知らせ申候が今年九月一日より磐中第十九回卒業生坪井武市君が當中學校に來任せられ數學科と柔道科とを擔當し頗る熱誠に敎授せられ居候 敬具
九月廿六日
北海道八雲中學校
平賀仙三郎
山野邊庄吉樣机下

× × ×

九月廿八日
磐崎村建德寺
佐竹智明
庄吉兄足下
絕ねて御無音を謝し申候
秋氣漸く央ならんとして楓葉紅を染め來ろ………
世情自ら愼沈眞摯に即するの時平新報一週年を祝し併せて社の發展と共に貴下の健康を祈上候 敬具

× × ×

山野邊庄吉樣
拜啓御地釜屋商店に在店中は毎々一方ならぬ御敎導に預り難有く御禮申上候
陳者今回私儀釜屋商店退店に際しては御叮重なる御餞別を戴き尙且つ出發の際は御多忙中の處御見送り下され厚く御禮申上候途中無事午後八時に相着し候間御休心下され度候先づは安着の御報旁々御禮まで 匆々頓首
九月廿一日
會津若松市博勞町六八
太田捷吉

文藝募集

大政奉還史論【二】

元磐城中學校敎諭
茨城縣土浦町築地町
荒木三郎述

正篤が歸府すると、その三日目即ち四月二十三日に井伊直弼が大老となつた。この前に幕府がハルリスと約した條約調印期は過ぎたから、七月廿七日まで延期してあるが、五月になると、ハルリスからも露艦からも「英佛兩國が所謂アロー號事件で淸國と戰つて勝利を得有利な條約を結んだ勢で日本に來る、その目的は開港を迫るにある」との情報を齎し、之に先んじて條約調印をしておくが得策であることをハルリスは大いに勸めた。直弼は幕議に諮つたが一致しないので、何とかして勅許を得たいと思ひ惱んだが、この間に立つては萬止むを得ぬと決心し、井上淸直岩瀨忠震の二人を神奈川に遣はし、ハルリスと會見の上、六月二十日に調印させてしまつた。この條約は明治二十七年に改正され、三十二年に實施されるに至るまでの間行はれて、國家の面目も損じ、不利益をも受けたものであるが、當時にあつて我が國の地位としては、これ以上の條約は出來なかつたであらうと思はれる。しかしこれが越えて萬延元年三月三日の櫻田事件の最大原因であつた。これが老儒村上佛山をして

落花紛々雪紛々、踏ㇾ雪蹴ㇾ花伏兵起、白晝斬取大臣頭、噫噫時事可ㇾ知耳、落花紛々雪紛々、或恐天下多事兆於ㇾ此

と慨嘆せしめた意外の大事變で、果して天下の多事はこれから益々甚しくなつたのである。當時の人々の心意狀態から言つても、舊曆三月三日の桃の節句に雪が降つただけでも、天下に異變でも起りはせぬかと思ふのが普通であつて宰相は陰陽を調べるものだと信じて居たのにその飛ぶ鳥をも落すほどの大勢力ある幕府の大老が首を取られたのだから、これで幕威は第二段の大墜落となつて、救ふ可らざる慘狀を呈したのである。この後間もなく起つた坂下門の變もこの落下の餘勢であつた。

將軍家定は病身で實子もなく、內外多事の幕府としては如何にも心細い將軍であつた。その繼嗣の事については、親藩や老中以下の幕府關係者中に二派があつた。一は水戶の德川齊昭の第七子で一橋家を繼いだ慶喜が賢明の聞え高い人であるからこれを立てたいといふので、これは識者階級の與論であつた。今一つは齊昭等と意見を異にして居る關係で、將軍の從弟に當る紀伊の德川慶福（後の將軍家茂）を立てようと希望するのであつた。直弼などは後者の方でその大老中に到頭慶福を繼嗣にと將軍の思召できまつてしまつたが、世間ではこれを直弼の所爲だと言つて大いに憎んだものであつた。それで條約調印の翌月即ち八月初に將軍が薨じて、家茂が第十四代將軍となつた。年は十三であつた。家茂は長じて後相當に思慮ある將軍であつたが、しかし國難に處して誤らざるほどの器量ではなかつた。

櫻田事件の後、久世廣周が老中上座となり、老中安藤信正と共に幕政に當つた。信正は對馬守と稱し、磐城平の城主で、外人に對しての談判では傑出した才能を有つて居て駐在の外國公使等も敬重して居たものであつた。しかし內政については唯幕府の不人望を恢復することのみに務めて、所謂公武合體の策を建てた。即ち孝明天皇の皇妹和宮親子內親王を將軍家茂に降嫁せられたいと奏して「十年以內には攘夷を行ひます」と心にもないことを申立てゝ強ひて勅許を得た。老中等の心では朝廷と幕府とが一體となれば天下の人々も幕府のみを責め立てることは出來なくなるといふのであつたが、結果は意外にも甚だ幕府の不利となつた即ち一は世人から幕府が袞龍の袖に隱れて自己の責を免れようとする卑怯狡猾を鳴らされることになつたのと今一つは朝廷を身に持つた關係で、內外百事朝廷から指圖をされることに陷つたことである。家康以來公家法度で天子公卿を押へ、政務に容喙させなかつたので全政權を握つた幕府が、既に天下に政論を許して創痍滿身の處へ、威脅の出來ぬ命令者が上から臨んだのであるから、これが幕威墜落の第三段となつたのである。

諸國の志士が京都に入り込んで、頻りに朝廷を動かし、幕府の行動を掣肘したので、井伊大老は安政の大獄を起してその巨魁を一掃したが櫻田事變後は志士の集まること更に甚しく過激の攘夷論を唱へて、公卿を遊說した朝廷でも誠にこれを厭ふやうになつて來た處へ文久二年の春公武合體論の島津久光（薩藩主齊彬の弟）が江戶に參府しようとして京都で都下の鎭撫を命せられた。この度も長藩の世子定廣（後に元德）が江戶から入京し、後また土佐の山內豐範も入京すると共に久光同樣の命を蒙つた。三藩の兵が京都を守ることになつたから、隱然として幕府の一敵國が生じた。それだけ幕威が墜ちた。幕府の全盛時代なら、朝廷でも大名等でも、幕府を憚つて、かやうな事はせぬのであつたが、幕府はこれに異議を申立てることも出來ぬのであつた。朝廷の威力が加はつたから、幕府が壓迫されることになつて、文久二年の五月には勅使大原重德を江戶に下し、家茂に對し「一橋慶喜を將軍の輔佐とし、松平慶永（越前藩主春嶽公）を大老に任じ以て夷狄の辱を受けぬやうにせよ」と命せられたこんなことまで指圖されるやうになつては幕威も何もあつたものではない。それで其通りになつた揚句は、嚢に直弼が蟄居謹愼を命じた者等を釋して優遇し、却つて井伊家の封地を削り、幕府の爲に盡した安藤信正も減封永蟄居となつたなど幕府の無威無力を暴露した

一週年に當りて（二）

本紙購讀者竝に廣告主御芳名

本紙創刊「昨年八月二十五日」より今日に至りたる事は左記各位の廣告に購讀料寄稿に物心の御後援の賜と存じ此處に畧儀乍ら紙上を以て深謝仕度候

平新報社

◇平町一丁目 坂本紙店殿
仝南町 鈴木堅助殿
仝 小松茂商店殿
仝大工町 志賀齒科醫院殿
仝田町 平電氣會社殿
仝南町 賀澤忠治殿
仝田町 千葉彥治殿
仝二丁目 鍋嘉酒店殿
仝 小松崎洗張店殿
仝田町 ライト寫眞館殿
◇紺屋町 カフエー松ケ岡殿
◇內郷村 山崎佐市殿
◇好間消防組頭 叶多淸殿
四ツ倉町 門馬公平殿
門馬醫院殿
◇磐城郵便局長 菅波富太郎殿
電氣會社長 新妻盛殿
セメント 四倉工業所殿
四ツ倉 四ツ倉銀行殿
四ツ倉電氣會社殿
四ツ倉運送倉庫會社殿
萬年死倉工業會社殿
磐城銀行 倉出張所殿
◇双葉郡久之濱町殿
◇大浦村 村長 堀部留造殿
助役 木村淸治殿
書記 小野淺治殿
◇高久村 本間武殿
酒釀業 藁谷明殿
箱崎淺吉殿
◇飯野村 山崎吉平殿
酒釀業 永山篤平殿
◇植田町 助役 渡邊博殿
常磐工業社 小野忠衞殿
第一區小學校 小野庄一殿
縣會議員 校長傳一同殿
郵便局長 古川守一殿
仝 物商 馬上尾一殿
鐵泉閣殿
植田 出張所殿
植田 屋別館殿
山田金三殿
常磐銀行 金成昇殿
驚淸雄殿
山野邊文章殿
町會議員 片岡醫院殿
齒科醫師 小野保殿
村松義節殿
森合 綠川秀男殿
齋藤直一殿

◇錦村 醬油釀造業 高木武一郎殿
村長 金成一通殿
◇勿來町 橫山太一殿
◇泉村 村長 中村立躬殿
上遠野助役殿
佐々木齒科醫院殿
醬油釀造業 松井清水殿
◇江名町 町會議員 吉田正雄殿
醬油社員 遠藤俊一郎殿
◇ヤマト醬油 菅原道一殿
◇小名濱町 縣會議員 小野晉平殿
消防組頭 小濱長太郎殿
町長 鈴木榮殿
助役 高木保殿
磐城水產 工業社殿
福尾伊太郎殿
町會議員 野崎才助殿
立花雄七殿
若竹殿
藝妓屋 新米殿
同 高木忠次殿
米肥料商 伊藤隆次殿
米穀商 員一同殿
水產試驗場 保田醫院殿
久 中村醫院殿
片岡醫院殿
高橋升次郎殿
鈴木富太郎殿
瀨金右衞門殿
◇小名濱小學校長 職員一同殿
丹野寬平殿
佐原酒店殿
三島五造郎殿
吉田正一義殿
黑木美顯殿
鈴木一男殿
長瀨東殿
荒川忠治殿
◇鹿島村 新妻贇雄殿
村長 江尻寅次郎殿
助役 江尻泰次郎殿
佐藤萬太郎殿
鴉沼末吉殿
箱崎伊之吉殿
新妻一殿
村會議員 大瀧政榮殿
全 志賀米敏殿
全 佐藤次治殿
馬要郎殿
門 荒川源重郎殿

◇玉川村 字岩出 村上龜之助殿
仝 永井鶴吉殿
仝 山野邊長吉殿
仝區長 野邊金次郎殿
仝 若松新之助殿
仝 山野邊武殿
仝 山野邊壽松殿
仝 鈴木益良殿
仝 山野邊義輝殿
仝 山野邊大吉殿
村長 永井億彌殿
助役 鈴木平九郎殿
鈴木稻美殿
村會議員 新妻恒五郎殿
仝 高萩繁彌殿
仝 小松精助殿
仝 野七太郎殿
仝 丹野寅吉殿
仝 丹野喜市殿
仝 丹野秀治殿
仝 長瀨主水殿
仝 小濱三代治殿
仝 齋藤熊治郎殿
仝 木根忠三殿
駒 箱崎市松殿
仝 遠藤半治殿
農會長 野崎喜代松殿
在軍分會長 長野崎藤太殿
永崎亮繁殿
村上重一殿
鈴木貞平殿
崎伊勢松殿
箱 武田常松殿
小泉一良殿
小泉民次郎殿
小松里吉殿
渡邊守彌殿
永 山太次郎殿
小泉直猪殿
村上須美吉殿
宮内熊次郎殿
宮内虎之助殿
橋本佐多壽殿
柳井柳治殿
鈴木金太郎殿
柳 井本竹治郎殿
橋井雄吉殿
永井庄平殿
小泉忠文殿
永井直良殿
齋藤丈夫殿
竹原理助殿
竹原銀次殿
故 佐藤久殿
佐藤盛司殿
西 丸馬之助殿
齋藤春吉殿
馬目吾行殿
永井業守殿
木常次郎殿
鈴 鈴木肇殿

◇磐崎村 鈴木正直殿
遠藤安喜殿
齋藤義雄殿
高萩儀平殿
丹野鶯之助殿
小松德松殿
佐竹硯明殿
長瀨龍之助殿
齋藤二男晃殿
渡邊星野久雄殿
渡邊吉殿
安藤嘉信殿
小學校 職員一同殿
役場 吏員一同殿
金成玄之松殿
金成仙藏殿
酒井貞三殿
酒井秀吉殿
織內才吉殿
小野田炭礦 組長 渡邊之助殿
仝 木辰光殿
仝 鈴 齋藤榮吉殿
里見勇馬殿
杉山條陟殿
吉田縫治殿
國井德次殿
◇湯本町 小學校長 御代德平殿
幼稚園 小泉恭明殿
代議士 佐竹智則殿
町長 佐田正則殿
町會議員 柴田正一殿
消防組頭 箱崎ハル殿
入山採炭 山野邊一殿
區會議員 比佐昌平殿
高木己之吉殿
石川德壽殿
木村順平殿
全 株式會社殿
全 比佐賢司殿
全 比久佐源造殿
山形屋 鯨岡一郎殿
平和削節 佐藤兵衞殿
區會議員 鈴木德七殿
全 鈴木唯七殿
學務委員 渡邊太郎殿
白土利渡殿
若松條助殿
泉 屋洋服店殿
吉田泰平殿
馬目政治殿
箱崎義一殿
鈴木勝彌殿
井 坂千代松殿
村上六平殿
町會議員 菅波駒之助殿
仝 若松忠兵衞殿
仝 鯨岡誠祐殿
仝 村德三郎殿
仝 坂本好松殿
仝 上川才市殿
木材商 矢吹佐一殿
醫師 藥谷兵庫殿
比佐榮一殿
鯨岡萩操殿
內高會社殿
無盡之助殿
小野金太郎殿
青木洋品店殿
山野邊良吉殿
自動車部殿
料理屋組合殿
小野藥店殿
蔦屋殿
◇石城郡第二區 敎育事務協殿
湯本小學校任殿
赤木作次郎殿
森文雄殿
若松利惣次殿
◇東京 大瀧旅館殿
府下高圓寺 鈴木信顯殿
佐藤九○八殿
◇朝鮮全羅北道廳內 續殿
◇神奈川縣足柄下郡 鈴木茂平殿
前川鐵道官舍 第十一號羽村殿
長瀨元治郎殿
◇一五 福島市大字 新妻一松木郎殿
◇福島市福島農工銀行殿
頭取 白井博之殿
△朝鮮全羅北道 警察部殿
湯原亮夫殿
△北海道八雲中學校內殿
平賀仙三郎殿
△朝鮮群山府 釜山日報群山支社長 北市喜多孝殿
△朝鮮裡里群山日報支局 宇津木蕉雨殿
△同商事會社支配人 大木房男殿
△同東拓內 金子龍男殿
△同群山村大井洞 上妻キク殿
△茨城縣土浦町築地町 荒木三郎殿
△東京日本橋區室町一ノ二 高知尾誠吉殿
△東京市外田端四〇五 大東製藥所殿
△東京本郷區湯島切通坂町四九有朋館內 新妻喜男殿 新妻熊男殿
△富山縣氷見女學校內 高木稻水殿
△大阪市南區大寶寺町 安藤信義殿
△福島市ノ町三六 縣度量衡檢定所 增田義夫殿
同所長 川淵治馬殿
同知事 半井淸殿
同內務部長殿
△草野村玉山 草野應一次殿
△双葉郡熊町村 吉岡善一殿
△二本松町安達中學校內 岡田朝五郎殿
△東京市麻布區富士見町 荒川精一殿
△三六朝鮮裡里東拓內 金子龍男殿
△長崎市濱口町一二五 長崎醫科大學敎授 醫學博士 淺田一殿
十月五日迄の分（以下次號）

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

平町一丁目
綿引本舖

平和削節
製造販賣
Ⓜ 鈴木道太郎商店
湯本驛前
鷄の餌「最上魚肉粉」

横森醫學博士推奬せる回春的營養素
養命酒の好評
親切第一の山野邊藥局が代理店として發賣以來異數の賣行を示しつゝある。マムシのエキス、養命酒は日本古來より傳はる蝮を原料としたる蛇酒にして信州特產の最も効力絕大なる藥草植物を配的したる現代唯一の滋養ある回春合靈酒なり、又本酒は葡萄酒に倣ること十倍にして芳香美味婦人子供にも飲み易く强力なる營養素は肉體も疲勞を回復す。
◎病後の人◎食餌進まず元氣のない人◎勉强運動の後で時々氣を失ふ人◎顏色蒼醒めの人◎神經衰弱の人◎婦人病衰弱に惱む人等試みに座右に一瓩を備へられよ。

植田町
森合齒科医院
本町
森合芳男

植田町 電話一〇七
片岡醫院
慈惠醫學士
院長 片岡章

植田鑛泉閣
（植田町近郊）

旅館 大村屋
大村一郎

平町田町（平驛前通）
平電氣株式會社
電話特長四二八番

取次迅速
取引正確
平町四丁目
トモマル 柴田書店
電話二三四番
◎定期休業毎月一回（參日）

☒淸新の料理と仕出の迅速
西洋料理
カフエー松ケ岡
平松ケ岡公園正門入口
電呼出 二三三 六五二

磐城時事研究會
復興の帝都を視察
自家新聞經營引いて 地方文化貢獻に資すべく

在平旬刊五社「磐城之實業、磐城經濟新報、磐城商工時報、磐城立憲新報と本社」を以つて成る磐城時事研究會協議會を去る三日夜城山磐女校前當番幹事小泉宗雄氏宅に開會出席員左の如く

實業	大和田與平氏
經濟	鈴木昌雄氏
商工	渡邊源吉氏
立憲	小泉宗雄氏
本社	山野邊庄吉

種々懇談協議をなしたがうち緊急事として産業開發、復興の帝都、中央政界、經濟狀況新聞業等視察のため會員一同來る十五日より三日間の豫定にて中外商業主催の産業文化博覧會參觀を兼ね帝都を視察する事を申し合せた、其他時事問題につき意見の交換をなし自家悦樂遊のために所謂在平の×××如く有志の寄附は絕對にうけぬ事として吾人同業者の向上と對社會地方有志が旬夕、通信記者の區別をなす見解等の打破策等につき種々打ち合せをした。

平の藝妓、料亭女中にも
公休日の必要あり
平町某辯護士、醫師は 藝酌婦の改善導策につき 交々左の如く語る

藝妓 は家の仲で玉を賣るもの、活動や汽車のなかはあまり感心したもでのない…がその活動觀に行くには四本藝妓自身がつけなければならん相で、若し觀劇中半時間にして御座敷になつても四本は主人にとられて仕舞ふ想である

左扇 で○の勞働者の主人達よ………御座敷になつたら直ぐ來たらそれで良いではないか、マサカ、活動に行く振りしてスの字と相引する藝妓もあるまい、大低ヨイ加減にせぬと勞働の鈴文が藝娼妓の酌婦勞資協調等とやつて來るかも知れぬ、弱きものはアマリいぢめぬ事だ、虐げられつゝある

花柳 の女、それはアマリに弱い……彼女等のすべてが持つ親は十中八九は貧でない、そこに彼女等の悲劇があり浮川竹の生活が初まる樣だ、彼女等强く生きよといふのは無理かも知れぬ……がそこを抱主も同情の眼を以つて今少し優遇とは行かぬとも改善してやるべきである

公娼 問題がやかましいと同時に必然として藝妓酌婦待遇問題が來るに決つて居るその折あはてぬだけの準備をすべきで寧ろ對外より叫ばれぬうち自ら進んで改善してやるべきが置屋主達の義務ではあるまいか

警察 の注意あつてから行ふ如きはアマリに人間味がない公休日の設置別借金は勿論身代金は無利子とする事かくすれば藝酌婦はきつと年限內に務め終るのである……が彼女等うち一名として年限中に借金を拔いたもの一人もないといふてもよいではないか、これが彼等の

貸借 關係が不合理であり生活が安定でない事を證據立てゝ居る、無利子として迴しても決して抱主が損をするといふ事はない筈である、檢黴費等も國稅に次いで懲收する權利があるので彼女等の商賣上の疾病は全部抱主が負擔すべきである平の藝妓に花が

自由 であるといふのも彼等の生活が密淫を余儀なくされ性病に影響して居るのではあるまいか、人格蹂躪の非難を受るか知らぬか藝妓に公然の秘密として○○を認めて否なかくせざるを得ぬ

社會 制度である以上藝妓酌婦に公娼と等しく檢黴を施行すべきであらふそれが藝酌婦自身のためであり社會保健上のためであらふさ。

夜學開始
平補習商業校

例年の通り平商業補習學校では十月十一日翌二月の五ヶ月間「毎夜日曜祝祭日休業」夜學を開始する筈晝間修學の余暇なき好學向上の人々は此際奮つて入學すべく就學さすべきであらふ因みに願書提出期日は本月九日迄入學心得資格等の要項は同校に問ひ合すべし。

感心な小學生
磐崎校の志賀君

磐崎村尋常小學校高等科二學年生志賀六郎さんは今夏期休業中を鰌をとりそれをためて學用品の購入費に當てゝ就學したとか遊惰に走り海水浴等と親兄姉を當てに許りして居る今日朝早く起きて鰌を得て就學するは一事に過ぎぬが一事は萬事感心な模範兒童として推奬されて居る。

平に活躍する
玉川村出の人々
それが親睦會生れん

玉川から平に來て活動して居る人々は

▲町會議員として田町林家の **野崎滿藏氏** この人は住吉の人で農會長野崎喜代松氏の令弟

▲同田町に藝娼妓仲介業をして岡田屋の **永井安太郎氏** 林城の人で永井村長の甥である

▲**駒木根忠三氏** 氏は平町三丁目に所在する星製藥社磐城配給所の專務取締役の席にあつて居村たる玉川村大原より毎日通勤して居る精勤者である、居村にあつては村會議員消防副頭等の公職に在りかつては在軍分會長もつとめ氏が會長時代に玉川村忠魂碑の建設には一方ならぬ貢獻をした親分星一氏の親切第一のモットーに反かぬ努力奮鬪の活動家である。

▲新川町に傘屋のオーソリチーとしての **永井鎌治氏** この人も林城の人で永井村長の兄である。

▲五丁目に **鈴木佐一郎**氏島の人で車掌をして居る

遠藤六郎氏 この人も島の人で平郵便局の集配人の取締をして居る八幡小路當りに居る樣だ。

松崎隆義氏 この人は湯本役場書記の松崎久治氏の令兄である。

▲機關庫に務めて居る城山に居らるゝらしい

橋本勇氏 金成の人で驛の操車係をして居る。

渡邊太次郎氏 大原の人で平町役場に務めて居る

渡邊庚三氏 この人は關內油店に拾有余年も勤續したる模範店員今は同店の庶務主任の位置にあり澤渡村下市管より迎妻一女あり過般より田中に居をかまいた大原の渡邊家の本家酒屋の八郎氏の二男である。

小泉宗雄氏 立憲新報の社長城山の女學校の社に居り林城の人である。

山野邊義政氏 刻苦精勵辯護士を贏ち得た人……事務所は南町である。岩出の生れで區長山野邊金次郎氏の令弟にして植田の醫師山野邊文雄氏長女を迎ひて一女あり此の頭擅球に趣味を持つた樣だ。

▲次は筆者庄吉で居所は玉川村の自宅に新聞社の事務所は地割け新宅の關係ある山野邊辯護士宅に置いて居り、出平の折は關內油店に寄宿しますが夜遲くなり又御客や友人その他の都合で佐野屋に宿る事として居りますよろしく………

▲尙ほ落してならぬは南町の酒類販賣店

小松茂氏 野田の醬油屋の三男若くして一家をなし今日の店の隆盛を來した精勵格勤の快男子で政談演說は相當やる相だ。

兎に角まだ〳〵居らるゝだらふかこれ等の人が集つて近々政黨政派を超越して親睦會を開く筈である。

鴻久會
文化博視察

平町二丁目鴻久會「青年分團」二十名は明後七日日歸にて文博觀覽を兼ね明治神宮新聞社等を視察すると。

十七睦會（さなみくわい）

磐中第十七回生青田目、原、淺野、蛭田、清水、富樫、皆川、多田井、仲田、筒井の諸同窓は時誼會合舊情を溫めつゝあつたが今回その會を十七睦會（さなみくわい）「磐中敎諭遠藤平太氏命名」と名稿したと。

平で鐵道に
從事する人
八百五十名

平驛勤務員何人居るか驛長新川雄氏の談によると定員百七十七名、助役三名其他機關庫に三百七十九名それを區別すれば▲保線區四十三名▲車掌九十三名▲檢車所五十五名▲電力區五名▲列車電燈四名▲通信區二十六名▲平治療所六名▲購賣配給所五名▲其他見習等を合して平に於て鐵道關係人八百五十名が居ると一家族四人平均として三千四百人の大團体

活耳目

この正々堂々振り

石城メートル展では本紙前々號を以つて會一切の事務と會計とを詳細公表した正に其の堂々表裏なきは推賞して可なり、秘密主義は吾人新人の採るべきものにあらず

事は未然に

在平某夕刊紙は在平中女學生の風紀亂るを報じて居つた、然り、カフエー等に公然出入して赤靑の酒を呑に、甚しきは性の調節をなし女學生にして籠の鳥の劇中の人たらんとして戀文等を交して居るものがある、多勢のうちのうち、不良分子はあるであらう、優等特待生を造るのみが敎育の目的でない、引いて退校等との處分をなすのが當を得たものでない、この不良をして普導し行くのが敎敎育者の任務だ、又相互學友間で不良生に私刑を加ふる如きは言語同斷である、その不良學友をして普導し行くが友情に厚き事で事は未然に防ぐべし、大事にならんうち

西牧敎頭去る

磐中敎頭西牧敎諭は今回家庭の都合上郷里石川に引き揚る事となり過る三日夜谷口に十五日會磐中同窓會聯合の盛大な送別の宴があつた由である先に、氏が退くを耳にせる同校五年生は留任運動をなした、それ程氏は生徒に對し溫情味があつたのだ、交際に上下がなかつたのだ、氏磐中に敎鞭をとる平の生活をなす約八年と聞く、今日この盛大な送別の宴と、生徒より去るを惜まる、敎育者として氏又大いに會心の笑をして可なりであるまいか、聞く說く石川に行つて石中の敎頭……やがて校長に推さるゝとの噂さである切に自愛を祈つてまやぬ

◆

◆

今回西牧敎頭の辭職については巷間傳ふる如き暗鬪等とを信じたくないが一番滑稽であるべき官界敎育者、宗敎家生活の內面は醜くい事が度々ある當り來た○崎敎諭なるものが問題を起した事があつた樣だ、此の人を敎頭に据ゑるとしたら校長滑川氏の人格と進退にもヒビきそれからそれへと波紋が起る樣な余感がすると消息通の某同窓生は語つて居つた樣である

安藤氏の進退

◆經濟紙は安藤某平を去るについて安藤が戾つて來たので人の親切を裏切るものだと評して居つた、安藤が白河から東京に行つて來た事は事實で母を迎ひに來たのであらう、病母を迎ひに來たのに何の不思議がない筈、經濟紙は兎に角、此の際安藤が戾つて來ようと來まいと何らかまはなかつた平安會の人々や餞別をやらなかつた人は云々する必要ないじやないか、餞別もやり彼を生かさうとした人にこそ初めて云々するの必要があるのである、經濟紙の安藤某は安藤信義と推する故に此の際吾人文化事業者としてかつては同業者であつた彼にそう鞭を當てる酷はしたくないものだ

田園タイムス

◆田園タイムスを出して居つた、酒井貞三君はその後磐崎村の實家で農をしてる相だ、君には農村にあつて農村開發がある筈である、そして君の文才を以つて時折單行本でも出したが君の存在も認めらるゝ事であらふと思ふ、切に自重を祈る、

民衆と長瀨君

◆經濟新報に社員たりし長瀨謙君はその後民衆とか新聞を出して居つたがその存在が消えてなくなり、この頃彼の父の話しによると實家鹿島村に家居して居るとか、君は出で來て反つて惡化する家居して妻帶し農に親しむ方君の前途ある光明が開くといふもの再び家出する如きは君をして暗黑の道へ誘ふものである、須らく、自愛せよ

野矢君自覺せよ

◆同經濟紙に居つた野矢安康君實業について居つたのだが此頃平に來て居る樣だ、人の恩を裏切るのは人でなしだ、男らく自覺すべきである、今にして改めずんば君の前途たるやあはれむべしである、世にはそう〳〵君のペテンにかゝるもの許りあるまいにありや

久野君何處

◆商工に居つた久野眞宏君その後健在なりやそを案ずるもの一人時事研究會員のみであるまい

平の夜

・・・・・・・・・

色ごり〳〵に 亂れ咲く
解語の花
藝妓の部(一)

婬風 の荒む事東北の大阪を以つて天下に名高き平町には所謂闇に働く女は何人居るか

△娼妓五十三名
△藝妓百二十名
△酌婦六十九名
△水仕三十二名
△カフイ女三十九名

大略右の如き警察の示す統計であるが右の外に宿屋料理屋の女中等又復外に不良女學生等合して夜の平町全市街を貫して新田町……南町……五色町と暗を縫ふこの女の人々が赤い、青い、燈酒精共に媚と愛？肉？を賣りながら生活をして居る、……ソの性の調節？の客は南町邊には勞働者學生が多く、新田町邊には所謂有產階級不良老年がハビこつて居る、樫村平警察署長の不良青年男女の取締よりこの不良老年の取締が肝心でこの老年共の惡い事は自然と若いものゝ眞似る事となるのである、いでや新田町邊の藝妓より號を遂ふて月旦をする事とする但し御客の事はものせんからどん〳〵地方發展になるならば風俗を害せず家庭を亂さぬ範圍に於て發展する事治外法權たり、

△玉川の政榮姐さん暫らく御病氣の由であつたが全快した由である、たひら妓として平花柳界のオーソリチーの名俠妓としての政榮裙！世が世であるならば、……世は樣々です、上見て限りなく下見て咲けよ百合の花、姐さんの物思ひに沈んだ横顏の艷姿を不用意のうち失敬してパチン、

政榮裙

但し寫眞は大分本物と遠ざかつて不味く出來ました！……が素人の撮つたものですからあしからず、

△二葉家の松葉姐さん、鮮滿の夜を旅しての歸り咲き一度歸りしその時は既に我が腕のものならず二度歸りしその折は既に此の世の人ならず、綿香「玉」の煙り燻ぶらす、一度死せしその人は再び蘇るものならずごうざます、ナーさん當りと復活してそのエネルギーを以て磐城から越後と跨にかけなはれな、

△一寸此頃出た新妓を紹介すれば三好家の多賀子は小名濱や植田、水戸と愛の切り賣りをなして來た妓で金齒揃のカグラ齒に金がかゝつて居る事は事實がものいふて居る、植田の醉客は記憶を呼び起せ、本油屋で年榮と稱した妓です、

△野口の若子同じく鶴の家でカホルいづれ植田仕込みたるは三島家のハル子「植田新油屋で〆子」どれもこれもでるは〳〵毎晩○○○○………

△仲家には市太郎といふ丸ポチャの可愛妓が出た、東京は中野に居つたとか、東京辯でおとなしい樣であるが左にあらず、いづれそこらそんじよの大御所四丁目當りのヒシオヤヂが慘虐すべく爪をとげて居る事であらふからヤアイ市太郎裙しつかり拜接を待つべし

△開花の花若は仙台生れの石悉仕込みとござい

△品澤の蝶々は一本となつて半歳振りで昔の半玉なつかしく桃割れに赤いカセにしたが品澤のオカミも色々工夫して居る所は熱心なものだ、それはそれとして蝶々のアンマは頗る堂に入つた相でこれもオカミが舞や踊りを敎へる折傳授したのであらふ、物はタメシ一つ揉まして御覽、訓盲院杖入らずなそうな、

△林家のワグリは急行で立つて直ちに打電、…而して公娼志願その飛び振りの早き事ラヂヲの如しである

△橘家の桃枝はダンスの名人ですぞ、歌劇女優をやつた事あるさかないさか、

△品澤のマリ子さんこの頃何のぼせておるのか、夜と晝を取り違ひ、晝間の座敷で今晚アーリ、夜に入つて今日はとやる相だ、そうでせう藝妓そのものゝ商是は夜が眼目なんだからね、

△例の仲家の小高とか、○澤さんに落籍されて四ツ倉當りへ行つて行たが此の頃田中當りへ圍ひ物、例のヤブ眼で小島當りの山と雲を眺めて居る樣だ、この妓の洗足料千八百圓そうすると代りに入つた、市太郎ヤイは千二百圓一寸藝妓屋もバランスがとれますね、○澤さん大分社會奉仕と見え末廣當りではハル子、市太郎多賀子等と新妓許り集めて悅に入つて居るとか、社會奉仕にも色々あるもので○忠當りでは有磬座の○○辯護士の○○と○○が奉仕をするゲナ、○忠のオカミどうだい草野村の蠶と○察の具合は?

△榮家のソノエの病氣はどうしたいオ子不遇而美人薄命であるまいネ、

▽富美の家の雪佳とか夜更けて三更異性と二人連れ新田町は昔堀もあり又、キも繁つて居りヤブもあつたそうだ、

△三島家の靜江さん愈々鞍替して仙台に行○たの事ヤハリ藝妓としてでだと彼靜江の平の藝妓生活は藝妓としてでなくセミ姿としてあつたと評して置く、

「浮川竹の浮き勤め
義理では引けど三味線の
愛し可愛の唯一人
だいて根締めの相の手に
末は夫婦と二世かけて
何の契りもたがやさぬ
好いた同志のなか〳〵に
浮世の淵瀨うき傳へ
浮名流すも君故に

[illegible]

氣を亂す如き所謂僞紳士二重人格者には忌彈なき艷筆を振ふ事は敢て辭せぬものである、以下次號

「鐵脚縱橫生」

社告

本郡大野村中島出身
地方部長
記者　長谷川正夫　「蘇泉」
八月八日より

×　×

本郡好間村中好間出身
記者　木田庄一　「政男」
九月五日より

右兩名左記月日より本社入社、務に從事し居り候條可然御諒承被下度候

平新報社

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
諸油類問屋
淸 關內油店
電話長一六番　電略〔セキ〕
油槽所　平町田町　電話六四〇番
支店油槽所　茨城縣多賀郡[illegible]　電話[illegible]三七番

川瀨幸治
赤井村

[illegible]醫院
平町四丁目
電話五〇八番

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

磐城セメント株式會社代理店
平町五丁目
㊇ 釜屋商店
電話（長）九番　三九番
東京振替一〇一五六番